

1. 試験目的 摘花効果の確認。

2. 対象病害虫

3. 試験内容

(1)実施場所 鬼沢 (2)実施農家 澤田富雄

(3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平

(5)概要

作物名 りんご 品 種 ふじ

樹 齢 30年生 栽植密度 8 m × 8 m 16 本/10a

開 花 日 4月28日 収穫始め 10月29日

(6)試験構成

試験面積 10 a (試験区 9 a 対照区 1 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月1日	サニディ	2,000	350 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

大変効いた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	4	4

(2)評価の理由

散布効果 ほぼ1つ成り、新梢果少ない

実用性 散布タイミングで効果のバラつきが見られる

使いやすさ その他摘果剤よりSSの汚れなし

(3)その他特記事項

実用性でも述べた通り、園地により散布タイミングが異なるため、それによる効果の確認は今後も必要だと思われる。

1. 試験目的 摘花効果の確認。

2. 対象病害虫

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市鳥井野

(2)実施農家 對馬 英世

(3)実施支店 岩木支店

(4)担当者 三上 純一

(5)概要

作物名 りんご

品種 ふじ

樹 齡 11年

栽植密度 4 m × 2.5 m 100本/10a

開花日 4月24日

収穫始め 11月1日

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月30日	サニディ	2,000	300 ^{リットル}		無し		

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

汚れ等ないので、いいと思う

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	5	4

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 あり

使いやすさ よい

(3)その他特記事項

樹によっては、摘花効果が強くでたり、副作用としてのしおれも強くでたりするので、取扱い（指導）の検討が必要とされます。

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 斑点落葉病、すす病、炭そ病、輪紋病
3. 試験内容
- (1)実施場所 鬼沢 (2)実施農家 鬼っ子共防
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 30年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開 花 日 4月28日 収穫始め 11月5日

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
8月27日	オーソサイド	800	400 $\frac{1}{10}$	8月27日	アリエッティC	800	400 $\frac{1}{10}$

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
斑点落葉病	無	少ない	少ない
すす病	少ない	少ない	少ない
炭そ病	少ない	少ない	少ない
輪紋病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

発生は少ない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果確認。

2. 対象病害虫 斑点落葉病・すす病・炭疽病・輪紋病

3. 試験内容

(1)実施場所 大鰐町長峰・九十九森 (2)実施農家 唐牛共防

(3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 古川 賢一

(5)概要

作物名 りんご 品 種 ふじ

樹 齢 25年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日 5月1日 収穫始め 10月25日

(6)試験構成

試験面積 80 a (試験区 40 a 対照区 40 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
8月22日	オーソサイド水和剤80	800	450 ^{リットル}	8月22日	アリエッティC水和剤	800	450 ^{リットル}
8月22日	イカズチWDG	1,500	450 ^{リットル}	8月22日	イカズチWDG	1,500	450 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
斑点落葉病	少ない	少ない	少ない
すす病	少ない	少ない	少ない
炭疽病	少ない	少ない	少ない
輪紋病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なし

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため

実用性 対照区と同等のため

使いやすさ 対照区と同等のため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 黒星病

3. 試験内容

(1)実施場所 白子 (2)実施農家 長内 一耕

(3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 佐藤 琉乃介

(5)概要

作物名 りんご 品 種 ふじ

樹 齢 20年 栽植密度 4 m × 5 m 50 本/10a

開 花 日 4月27日 収穫始め 11月10日

(6)試験構成

試験面積 100 a (試験区 50 a 対照区 50 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月3日	ペンコゼブ (水)	600倍	420 $\frac{g}{10a}$	5月3日	ジマンダイセン (水)	600倍	420 $\frac{g}{10a}$
5月13日	ペンコゼブ (水)	600倍	420 $\frac{g}{10a}$	5月13日	ジマンダイセン (水)	600倍	420 $\frac{g}{10a}$

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

ジマンダイセンに対しての効果が同等である。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等の結果だったため

実用性 対象区と同等の結果だったため

使いやすさ 対象区と同等の結果だったため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 赤星病、褐斑病、黒星病、黒点病、すす病、炭そ病、輪紋病、斑点落葉病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市小沢 (2)実施農家 山形 弘晃
- (3)実施支店 弘前南支店 (4)担当者 今 修平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 5 m × 3 m 67 本/10a
- 開 花 日 4月27日 収穫始め 11月5日

(6)試験構成

試験面積 40 a (試験区 20 a 対照区 20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月5日	ペンコゼブ水和剤	600	350 _㍉	6月5日	ジマンダイセン水和剤	600	350 _㍉
〃	サイアノックス水和剤	1,000	〃	〃	サイアノックス水和剤	1,000	〃
〃	ネオミクス	250	〃	〃	ネオミクス	250	〃

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
黒点病	無	無	無
うどんこ病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果は同等と思われる。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等。

実用性 対照区と同等。

使いやすさ 対照区と同等。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 斑点落葉、炭疽、輪紋、すす病
3. 試験内容
- (1)実施場所 大森 (2)実施農家 八代 豊和
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 9年 栽植密度 5m × 3m 67本/10a
- 開花日 4月28日 収穫始め 10月26日

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
8月16日	ツインバリアー水和剤	1,000	400 $\frac{g}{10a}$	8月16日	アリエッティC水和剤	800	400 $\frac{g}{10a}$
	アーデントF	2,000			アーデントF	2,000	
	オマイト水和剤	750			オマイト水和剤	750	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
斑点落葉病	無	無	無
炭疽病	少ない	少ない	少ない
輪紋病	少ない	少ない	多い
すす病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

発生量は少ない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等

実用性 対象区と同等

使いやすさ 対象区と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 斑点落葉、炭疽、輪紋、すす病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市蒔苗 (2)実施農家 蒔苗 行子
- (3)実施支店 船沢支店 (4)担当者 篠崎 唯太
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 30年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開 花 日 4月28日 収穫始め 10月28日

(6)試験構成

試験面積 40 a (試験区 20 a 対照区 20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
8月18日	ツインバリアー水和剤	1,000	400 ^{リットル}	8月18日	アリエッティC水和剤	800	400 ^{リットル}
8月18日	イカズチWDG	1,500	400 ^{リットル}	8月18日	イカズチWDG	1,500	400 ^{リットル}
8月18日	オマイト水和剤	750	400 ^{リットル}	8月18日	オマイト水和剤	750	400 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
斑点落葉病	無	無	無
炭疽病	少ない	少ない	少ない
輪紋病	少ない	少ない	少ない
すす病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

病害の発生量は少ない。
効果に差は見られなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等のため。

実用性 対象区と同等のため。

使いやすさ 対象区と同等のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果確認。
2. 対象病害虫 アブラムシ類・キンモンホソガ・ギンモンハモグリガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 大鰐町森山 (2)実施農家 佐々木 康
- (3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 古川 賢一
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 25年 栽植密度 6 m × 6 m 28 本/10a
- 開 花 日 4月23日 収穫始め 10月30日

(6)試験構成

試験面積 60 a (試験区 30 a 対照区 30 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月10日	バリアード（顆粒水）	4,000	300 ^{リットル}	4月10日	ダズバン（DF）	3,000	300 ^{リットル}
4月10日	マシン油（乳）	200	300 ^{リットル}	4月10日	マシン油（乳）	200	300 ^{リットル}
4月10日	ベフラン（液）	1,000	300 ^{リットル}	4月10日	ベフラン（液）	1,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない
キンモンホソガ	少ない	少ない	少ない
ギンモンハモグリガ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なし

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため

実用性 対照区と同等のため

使いやすさ 対照区と同等のため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果確認。

2. 対象病害虫 アブラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市小栗山 (2)実施農家 小栗山共防

(3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太

(5)概要

作物名 りんご 品 種 ふじ

樹 齢 30年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日 4月25日 収穫始め 10月下旬

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月13日	バリアード顆粒水和剤	4,000	350 ^{リットル}	4月13日	ダーズバン	3,000	350 ^{リットル}
4月13日	マシン油乳剤 (スプレーオイル)	200	350 ^{リットル}	4月13日	マシン油乳剤 (スプレーオイル)	200	350 ^{リットル}
4月13日	アプロードフロアブル	1,000	350 ^{リットル}	4月13日	アプロードフロアブル	1,000	350 ^{リットル}
4月13日	ベフラン液剤	1,000	350 ^{リットル}	4月13日	ベフラン液剤	1,000	350 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない
キンモンホソガ	少ない	少ない	少ない
ギンモンハモグリガ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

アブラムシの発生がどちらも少ない

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 有り

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 モモシクイガ、アブラムシ類
3. 試験内容
- (1)実施場所 大森 (2)実施農家 おがれ共防
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹齢 30年生 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 4月28日 収穫始め 11月5日

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月18日	キラップF	2,000	400 _{リットル}	6月18日	モスピラン顆粒水和剤	4,000	
	オキシンドー水和剤	1,200			オキシンドー水和剤	1,200	
	エコマイト顆粒水和剤	2,000			エコマイト顆粒水和剤	2,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシクイガ	少ない	無	無
アブラムシ類	普通	無	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

試験区の方が効果が高かった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	4	4

(2)評価の理由

散布効果 対象区より効果が高かった。

実用性 同等

使いやすさ フロアブル剤で使い易い。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 モモシクイガ、アブラムシ類
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市蒔苗 (2)実施農家 蒔苗 行子
- (3)実施支店 船沢支店 (4)担当者 篠崎 唯太
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 30年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開 花 日 4月28日 収穫始め 10月28日

(6)試験構成

試験面積 40 a (試験区 20 a 対照区 20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月19日	ラビライト水和剤	500	400 ^{リットル}	6月19日	ラビライト水和剤	500	400 ^{リットル}
6月19日	キラップフロアブル	2,000	400 ^{リットル}	6月19日	モスピラン顆粒水和剤	4,000	400 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシクイガ	少ない	無	無
アブラムシ類	普通	無	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

アブラムシに対して高い効果が見られた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	4	4

(2)評価の理由

散布効果 アブラムシに対して高い効果が見られた。

実用性 対象区と同等。

使いやすさ フロアブル剤のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 褐斑病
3. 試験内容
- (1)実施場所 大森 (2)実施農家 おがれ共防
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹齢 30年生 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 4月28日 収穫始め 11月5日

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
7月16日	オンリーワンF	2,000	400 $\frac{g}{10a}$	7月16日	ユニックス顆粒水和剤	2,000	400 $\frac{g}{10a}$
	オキシンドー水和剤	1,200			オキシンドー水和剤	1,200	
	フェニックスF	4,000			フェニックスF	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
褐斑病	無	無	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

高い防除効果が得られた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 発病葉、落葉等は見られなかった。

実用性 値段に期待

使いやすさ フロアブル剤の為。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 褐斑病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市小栗山 (2)実施農家 小栗山共防
- (3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 30年 栽植密度 7m × 7m 20本/10a
- 開花日 4月25日 収穫始め 10月下旬

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
7月22日	オンリーワンフロアブル	2,000	400 ^{g/10a}	7月22日	ユニックス顆粒水和剤	2,000	400 ^{g/10a}
7月22日	オキシンドー水和剤	1,200	400 ^{g/10a}	7月22日	オキシンドー水和剤	1,200	400 ^{g/10a}
7月22日	フェニックスフロアブル	4,000	400 ^{g/10a}	7月22日	フェニックスフロアブル	4,000	400 ^{g/10a}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
褐斑病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

褐斑病に対して効いていたと思う。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 褐斑病が対象区と同じくらい少なかった。

実用性 あり

使いやすさ フロアブル剤の為使いやすい。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 黒星病、うどんこ病、モニリア病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市高杉 (2)実施農家 葛西 利直
- (3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 長内 隆
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 25年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開 花 日 4月28日 収穫始め 11月1日

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月23日	セルカディスDフロアブル	1,500	300 ^{リットル}	4月23日	カナメフロアブル	4,000	300 ^{リットル}
4月23日	バイオマックスDF	2,000	300 ^{リットル}	4月23日	バイオマックスDF	2,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
うどんこ病	無	無	無
モニリア病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

病害は確認されなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため

実用性 対照区と同等のため

使いやすさ 対照区と同等のため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 黒星病・うどんこ病・モニリア病
3. 試験内容
- (1)実施場所 大鰐町森山 (2)実施農家 佐々木 慎
- (3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 古川 賢一
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 5 m × 3 m 67 本/10a
- 開 花 日 4月23日 収穫始め 10月30日

(6)試験構成

試験面積 60 a (試験区 30 a 対照区 30 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月21日	セルカディスD	1,500	350 ^{リットル}	4月21日	カナメ	4,000	350 ^{リットル}
4月21日	バイオマックス	2,000	350 ^{リットル}	4月21日	バイオマックス	2,000	350 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	少ない	少ない	少ない
うどんこ病	少ない	少ない	少ない
モニリア病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なし

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため

実用性 対照区と同等のため

使いやすさ 対照区と同等のため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果確認。

2. 対象病害虫 モモシクイガ、アブラムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所 小栗山 (2)実施農家 小栗山共防

(3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太

(5)概要

作物名 りんご 品 種 ふじ

樹 齢 30年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日 4月25日 収穫始め 10月下旬

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月17日	キラップフロアブル	2,000	400 ^{リットル}	6月17日	ダントツ水溶剤	4,000	400 ^{リットル}
6月17日	チオノック	500	400 ^{リットル}	6月17日	コルト顆粒水和剤	6,000	400 ^{リットル}
6月17日	カルマッチ	770	400 ^{リットル}	6月17日	チオノック	500	400 ^{リットル}
				6月17日	カルマッチ	770	400 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシクイガ	少ない	少ない	少ない
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象害虫が少なかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	2	4	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等位に防除できている。

実用性 ナシヒメシクイに登録がないので

使いやすさ この時期5種混合なので1剤減るだけでも違う。

(3)その他特記事項

試験区特別散布にて行った。
通常の防除暦ラビライト、オリオン、コルト、ダニオーテ、カルマッチ

1. 試験目的 防除効果確認。
2. 対象病害虫 アブラムシ・モモシンクイガ等
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市悪戸 (2)実施農家 三上 悟
- (3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 三上 純一
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 35年 栽植密度 8 m × 8 m 15本/10a
- 開 花 日 4月26日 収穫始め 11月10日

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月15日	ジマンダイセン	600	400 ^{リットル}	6月15日	ジマンダイセン	600	400 ^{リットル}
6月15日	キラップフロアブル	2,000	400 ^{リットル}	6月15日	モスピラン	4,000	400 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ	普通	少ない	少ない
モモシンクイガ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

モモシンクイガの防除効果が確認できなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 不明

実用性 不明

使いやすさ 良い

(3)その他特記事項

ハリトーン類の防除効果の確認をしたい

1. 試験目的 ツキノワグマ忌避効果の確認
2. 対象 ツキノワグマ
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市一野渡 (2)実施農家 一大地区鳥獣被害対策協議会
- (3)実施支店 弘前東 (4)担当者 佐藤 貴哉
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 つがる・ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 6 m × 6 m 27本/10a
- 開 花 日 5月2日 収穫始め 9月上旬
- (6)試験構成
- 試験面積 10 a (試験区 10 a 対照区 - a)

試験区			対照区		
設置日	薬剤名	使用量	散布日	薬剤名	使用量
7月15日	キープアウト	10本	-	-	-
10月上旬	キープアウト	10本	-	-	-

4. 試験結果

(1)防除効果

対象	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ツキノワグマ	多い	多い	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

最初は被害が減った気がするが、効果が持続しない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	2	5	2

(2)評価の理由

散布効果 設置当初は被害が少ないという声が多かった

実用性 設置してしばらくすると被害が見られたことから効果が持続しないため

使いやすさ 樹へぶら下げるだけなので、簡単

(3)その他特記事項

早生種では被害があったが、晩生種でもう一度効果を再確認したい。

1. 試験目的 ツキノワグマ忌避効果の確認
2. 対象 ツキノワグマ
3. 試験内容
- (1) 実施場所 弘前市一野渡 (2) 実施農家 一大地区鳥獣被害対策協議会
- (3) 実施支店 弘前東 (4) 担当者 佐藤 貴哉
- (5) 概要
- 作物名 りんご 品 種 つがる
- 樹 齢 13年 栽植密度 6 m × 6 m 27 本/10a
- 開 花 日 5月2日 収穫始め 9月上旬
- (6) 試験構成
- 試験面積 10 a (試験区 10 a 対照区 - a)

試験区			対照区		
設置日	薬剤名	使用量	散布日	薬剤名	使用量
7月15日	キープアウト	10本	-	-	-

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ツキノワグマ	多い	多い	

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

最初は被害が減った気がするが、効果が持続しない。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	2	4	2

(2) 評価の理由

散布効果 設置当初は被害が少ないという声が多かった

実用性 設置してしばらくすると被害が見られたことから効果が持続しないため

使いやすさ 樹へぶら下げるだけなので、簡単

(3) その他特記事項